

令和4年度 小林市立須木小学校 自己評価書

4段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営ビジョン	「自信を持ち、夢や希望をもった、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～【テーマ わたしがやる！みんなでやる！パワーアップ須木小】			
----------	--	--	--	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	実践事項	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
知育	重点目標: 基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成 手段 1 基本的学習習慣の徹底 2 家庭学習の確立 3 タブレットを活用し、学習意欲と学力向上 4 キャリア教育の充実 5 絵本100冊運動	1)について ○ 立腰・鉛筆の正しい持ち方の指導	○ 学習の約束に関する指導の重点化(立腰、鉛筆の持ち方)と継続的指導の実施	3	3	・鉛筆の持ち方グリップを活用させることで、少しずつ正しい持ち方のできる児童が増えてきた。あと2名であるが、全員が正しい持ち方ができるように、継続して支援を行っていきたい。箸と鉛筆の持ち方は、使い始めた時の教え方が大切であると強く感じている。 ・家庭学習の4つの決まり、6つの約束を宅習ノートに貼らせたり、よい宅習をコピーし児童玄関の壁に掲示したりすることで改善を図ってきた。しかしながら、個別指導を要する児童もおり、昼休みや放課後に個別指導を行ってきた。今後は、家庭とも連携をして内容の改善を図っていきたい。 ・タブレットを活用するに当たり、ICT支援員のサポートが有り、特別な支援が必要な児童にタブレットでの家庭学習を実施できるようになった。家庭学習で使用できるソフト等も少しずつ充実してきており、自宅学習で使用できるソフト等を充実させることで、学力の向上を図っていききたい。 ・発表にプレゼンテーションソフトなどを使用するなど、児童も教師も操作スキルや発表技術は高まってきている。 ・ICT支援員のサポートが有り、特別な支援が必要な児童にタブレットでの家庭学習を実施できるようになった。 ・練習問題のアプリ(国語・算数)を導入したことで、全児童が、休み時間やプリントが終わった後などの隙間時間に競い合いながら学習している。 ・動画資料から、視覚的な情報を得て学習に活用している。また、すきるタイム等に、漢字や計算、タイピングなどに取り組むことができている。 ・実際にノートに書くことも大切なことであり、ノートの書き方指導とタブレット活用とのバランスをとっていく必要がある。 ・全校児童の将来の夢を同じ場所に掲示することで、子供達は、他の児童の夢を見て、自分の将来に夢について真剣に考える機会となっていた。 ・生活科、社会科の校外学習や遠足等で、地域で働いている人と自分たちの生活との関わりを見つづけることができた。 ・総合的な学習の時間や理科、行事等で、外部の講師(専門家)を活用することで、より専門的なことを学ぶことができた。 ・地域や地域外の職業人への講話、職業に関するアンケート調査、職業体験等を取り入れることで、キャリア発達を促していききたい。 ・教師や委員会児童による読み聞かせ、代表児童による本の紹介、図書委員会の様々な取組により、本を読む児童は増えた。 ・図書室の利用状況や読書室には、個人差がある。個人差をなくすために、全校児童の読書の状況を把握し、表彰などの手立てを講じた。 ・あすなる会の方の御協力により、読み聞かせは充実していた。(児童も楽しみにしていた。) ・電子図書館を導入したが、本の貸出冊数は減っていない。子供達は、デジタルの本よりも紙の本の方を好む傾向にある。
		2)について ○ 宅習ノートの改善指導 ○ 保護者と協力した家庭での学習習慣の確立 ○ 家庭学習におけるタブレットの活用	○ 家庭学習の4つの決まり、6つの約束等の配付、見本となる宅習の掲示 ○ 基本的学習習慣の確立に関する保護者への啓発(アンケート実施及び結果の提示) ○ 自宅にタブレットを持ち帰らせ、課題等を行わせた(上学年) ○ 今後、自宅等で課題として使用できるソフト等を更に充実させていく予定である	3		
		3)について ○ 授業や家庭学習でのタブレットの活用 ○ すきるタイムでの活用 ○ 新聞記事を活用した読解力の育成 ○ 一人1授業(研究授業)の実施 ○ 授業論文への応募	○ 日々の授業、研究授業におけるタブレットの積極的な活用(ほとんどの授業で活用した) ○ すきるタイムにおける積極的なタブレットの活用(プレゼンや原稿作成等) ○ 新聞記事を活用し、読み取る力や書く力の向上を図った ○ 一人1授業を実施し、全職員で参観し、お互いに意見や感想を伝えた ○ 授業論文への応募(1名)	3		
		4)について ○ 将来の夢の掲示 ○ 須木の未来についての学習の実施	○ 全校児童の将来の夢を掲示 ○ 授業の内容と将来の夢が関連していることの意識付けを図った ○ 総合的な学習の時間における郷土学習を通じた進路学習の実施	3		
		5)について ○ 図書を活用した授業の実施 ○ 電子図書館の活用 ○ 読み聞かせの充実(あすなる会との連携) ※ 図書委員に児童による読み聞かせ	○ 読書旬間の実施(年1回)※11月(多読賞、読み聞かせ等) ○ あすなる会等の読み聞かせの実施 ○ 図書委員会を中心とした読書推進の取組(ZOOMを使用した読み聞かせの実施) ○ 教員による電子図書館を使用した読み聞かせの実施(お話玉手箱)	3		
徳育	重点目標: ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 手段 1 いじめ認知の向上と解消 2 郷土愛の育成 3 一人一人が活躍できる場の設定	1)について ○ 生活アンケート・サポート委員会の実施 ○ 家庭との連携の充実(電話や家庭訪問) ○ 人権学習の推進 ○ 教育相談の充実(年2回 6月・11月)	○ 生徒指導、いじめ防止に関する職員研修(SSW活用研修等)の充実 ○ アンケート調査、教育相談、サポート委員会実施による、未然防止およびいじめの早期発見・早期対応(保護者に対するアンケートも実施) ○ 「西諸みんなで人権を考える取組」の実践	3	3	・アンケートを毎月実施し、気になる点がある児童については、聞き取りを行い、早期に対応し、全職員で情報を共有し、対応してきた。 ・家庭に対してもアンケートの実施や個別相談を実施し、困り感の把握とその支援を行った。今後も更なる支援に努めたい。 ・いじめの件数は減少している。今後もいじめが起こらない環境作りのために、確実な見届けや教師間、家庭との連携の更なる強化に努めたい。 ・年2回の人権学習、SOSの出し方の授業、命に関する授業、教育相談等を実施した。 ・生活科の校外学習では、地域の施設や商店などを見て回り、地域の場所や人に親しみをもつことができた。高学年の総合的な学習では、須木について調べ、未来づくりを提言する学習を行ってきた。須木に対する郷土愛を深められるようにしていきたい。 ・総合的な学習の時間、どこでも博物館、森林学習、クラブ活動、プログラミング学習、お菓子作り体験、植樹など、様々な活動に地域の方の協力を得ることができた。来年度以降も多くの方に御協力をいただき、児童の成長を図っていききたい。 ・委員会活動の呼びかけや児童同士で声をかけ合うことによって、自ら進んでボランティアに参加するようになった。 ・全校での取組により、朝のボランティア活動を進んでできるようになってきている。 ・高学年が低学年に掃除の仕方を教えることで自分から行動できる児童が増えた。 ・みんなで〇〇する日の企画・運営を児童に行わせることで、少しずつ、創造性や表現力などが成長してきているように感じる。継続していききたい。
		2)について ○ 新聞、地域人材の活用 ○ 総合的な学習の時間における、ふるさと教育の推進	○ 宮崎日日新聞・こども新聞の購読コーナー設置 ○ 教科や行事における体験活動や地域の人材を活用した学習の実施 ※ 社会科、総合的な学習の時間、生活科、クラブ活動における学習での人材活用 ○ 読売新聞ワークシートの活用。(読解力向上)	3		
		3)について ○ 朝のボランティア活動の実施、活性化 ○ 放送や児童集会等での発表の場の設定 ○ みんなで〇〇する日の企画、運営	○ 朝のボランティア活動を事あるごとに称賛することで活性化を図った ○ 児童が活躍する場を集会やお昼の放送等で意図的に設定した ○ みんなで〇〇する日の児童による企画・運営	3		
体育	重点目標: 健康的な生活を過ごそうとする児童の育成 手段: 1 早寝早起きの規則正しい生活習慣の確立 2 体育の授業の充実 3 運動に親しむ児童の育成 4 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	1)について ○ 全員登校100日以上を目指す	○ 学校便りや学級通信、保健便り、心身の健康管理と欠席をなくすように呼びかけた ○ 養護教諭に、全員が登校した日を確認することで、日々、意識するようにした ○ 欠席をした児童には、電話連絡や家庭訪問を行い確認等を行った ○ コロナウイルス感染対策も継続して行ってきた	3	3	・12月16日(金)現在で、全員登校が76日達成できている。(昨年度は、12月16日現在で75日であった。)コロナウイルス感染症等の関係もあり、厳しい時期もあった。感染対策等を徹底させることで、数値目標の達成を図りたい。 ・連続して欠席した児童には、電話連絡や家庭訪問を行い、体調の確認や学校の様子を知らせるなどの対応を行った。 ・保健関係で気になることについては、保健だより等を通じて、保護者にお知らせするようにした。 ・体力テストの結果は、ほとんどの項目で昨年度よりも向上している。継続的な運動の結果である。体育では、最後まで運動を頑張る児童が増えた。 ・11月から12月にかけて、長距離走大会に向けての練習を行い、大会を実施した。多くの児童の記録が向上した。 ・体力テストを全学年で行うことで、自分の記録と友達の記録を比較しながら振り返りを行うことができた。 ・授業でのタブレットの活用が少なかった。他校の活用例をもとに、体力や技術の向上につながる効果的な活用方法について研究を深めていきたい。 ・昼休みは、外で遊んでいる児童も多く、サッカーやドッチボールを行う児童がいる一方で、一輪車などの遊具を使用している児童もいた。 ・1年間を通じて、なわとび運動や握力の強化などに取り組んできた。その成果が体力テストにも出ていると思われる。継続していききたい。 ・コロナウイルス感染拡大により、昼休み時間をカットせざるを得ない時期もあった。対策を講じながら、出来る限りカットしなくてもいい方法を模索していきたい。 ・保体委員会の児童と連携し、校内の歯ブラシチェックや校内の消毒等の取組を行ってきた。 ・検診の結果を使用して、保健だよりで受診の呼びかけを行った。また、保健だよりや学級通信を活用して、長期休業などの期間を利用した治療の呼びかけを行った。あと5名が歯の治療が終わっていない。継続して家庭にも協力の呼びかけを行っていく。 ・姿勢棒の活用、目の体操が、昨年ほどは実施できていないために、教師の評価が-1.1の評価となっている。速やかな活用・実施を促す。
		2)について ○ 体力向上プランにもとづく運動量の確保、質の向上 ○ タブレットを活用した体育の授業の実施	○ 体力向上プランの作成と授業等での実践 ○ 体力テストの実施と結果の分析、活用 ○ 握力など、これまで課題であった項目の改善に向けた取組を継続して行った ○ タブレットによる活動の様子の動画、静止画撮影、授業への活用	3		
		3)について ○ 朝、昼休みの外遊びの推奨 ○ 遊具(一輪車、竹馬、サッカーゴール等)の整備	○ 外遊びを奨励し、時間がある時は、教師も遊ぶようにした。 ○ 体育の授業を含め、1年間を通じたなわとび運動の実施(なわとびカードの活用) ○ 遊具等の安全点検を実施し、安心して遊べる環境作りを行った	3		
		4)について ○ フッ化物洗口の実施と検診結果を活用した、虫歯治療率の向上 ○ 姿勢棒の活用 ○ タブレット使用後の目の体操	○ 委員会活動を活用した基本的学習習慣の確立への取組 ○ 検診結果の配付及び受診が進まない児童、家庭への個別相談の実施 ○ 全児童に対するフッ化物洗口の実施 ※ 実施できない時期(赤圏域)が多かった	3		
食育	重点目標: 望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 手段: 1 食に対する指導の充実、食育の推進 2 食事のバランスの推進 3 年間2回の弁当の日の実施と感謝集会の実施	1)について ○ 給食指導や学級活動における食育活動を通して、食に対する感謝の気持ちの醸成を図るとともに、食事のマナー、箸の持ち方を身に付けさせる	○ 全学級で食育の授業を行うことを通して、食事のマナーの向上を図るとともに、栄養バランスについて指導をした ○ 給食時間に、食事のマナーや箸の持ち方に関する指導を行った	3	3	・今年度も、感染症拡大防止の観点から、ふれあい給食を実施できなかった。残食0を達成させることや食事のマナー向上のために、来年度は、感染対策を講じた上での再開も模索していきたい。 ・箸の正しい持ち方ができていない児童がいる。家庭の協力も得ながら、改善を図っていききたい。 ・学級でも箸の持ち方の指導を行うが、一度身に付いたものを改善するのは、なかなか難しい。粘り強く、家庭の協力も得ながら行っていききたい。 ・食べきり週間を設定し、結果を発表することで、残食への意識付けを図ることができたのではないかとと思う。 ・給食時間にやり取りを行わせることで、残食が出ないようにしてきた。 ・保護者への生活アンケートを実施することで、欠食児童がいることも分かった。夜遅くまでのゲームや動画視聴のために就寝時間が遅くなっていること、欠食につながっている現状を保護者の方に理解していただき、協力していただけるように働きかけを行っていききたい。 ・給食感謝集会は、1月に実施できた。食に対する感謝の気持ちをもち、食を大切にできる子供たちを育てていきたい。 ・全学年で食育の授業を実施した。学級でも食育の授業を行うことで、自分で食事のバランスを考えられる児童を育成した。 ・今年度は、第1回弁当の日(弁当または食事作り)を冬休み中に実施した。第2回弁当の日は、3月の遠足の日に実施する予定である。 ・弁当の日ではなくても、弁当が必要な時や家庭で食事を作る際に、手伝っている児童がいるとの回答もあった。
		2)について ○ 残食0 ○ 朝ごはんの推奨と欠食0	○ 食べきり週間の設定と結果の掲示 ○ 学級通信や保健だより、学校保健委員会を通じて、保護者に投げかけた ○ 食べることができない物については、児童同士でやりとりをさせた ○ 苦手な食材を少しでも食べるように指導を行った(無理強いしなかった)	3		
		3)について ○ 弁当の日の「できることからやってみよう」の取組 ○ 給食感謝集会や農業体験学習における感謝の気持ちの育成	○ 3つのコースを設定し、自分に合った内容でお弁当の日に参加させた ○ 給食感謝集会を実施し、食への感謝の気持ちの醸成を図った ○ 食育の授業中に、栄養価を考えたメニューの検討 ○ 1・2年生が、芋の苗植えを行った	3		

次年度の方向性についての校長所見	本校の課題は、一人一人の学力の定着と主体性を持った児童を育成することである。少しずつではあるが、学習に取り組む姿勢が見られたり、主体性を持って活動する部分が見られたりするようになった。しかし、一人一人の学力の定着については、それぞれ課題が見られ、今後学習習慣の徹底を図ることや家庭学習の定着を図らなければならない。また、自分を知るキャリア教育やふるさとを知るための地域連携など地域に根ざした教育を進める必要があると考える。次年度は、一人一人にあった教育を進めながら、協働した学びを図ることで課題解決に向けた取り組みを進めていきたい。
------------------	--